

国際化



- ・ラシャッド・ブフラル駐日モロッコ王国特命全権大使が本学を訪問
- ・日本語・日本文化教育センター 郡上踊りワークショップを開催
- ・在岐阜リトアニア共和国名誉領事及び駐日リトアニア共和国大使にリトアニア共和国との交流状況を報告
- ・在マレーシア国民大学副学長等が本学を訪問
- ・マリアノ・マルコス州立大学学長等が本学を訪問
- ・リール大学副学長等が本学を訪問
- ・社会システム経営学環及びグローバル推進機構の教員がフエ大学を訪問
- ・岐阜大学ペタンク体験&大学対抗ペタンク大会を開催
- ・国際月間特別シンポジウム「グローバル化は我々をどこに導くのか—ChatGPT時代を生き残れ！ 国際化に必要な能力は本当に英語なのか？—」を開催
- ・ノーザンケンタッキー大学国際教育センター事務局長が本学を表敬訪問
- ・岐阜大学大学院連合農学研究科が「IC-GU12 Roundtable 2023」等を開催
- ・ヴィータウタス・マグヌス大学農業アカデミー学部長らが本学を訪問



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

ラシャッド・ブフラル駐日モロッコ王国特命全権大使が 本学を訪問

【概要】

2023年5月2日（火）、ラシャッド・ブフラル駐日モロッコ王国特命全権大使が本学を訪問しました。

この訪問は本学と駐日モロッコ王国特命全権大使双方の要望のもと、岐阜県の協力により実現したものです。

ラシャッド・ブフラル大使は、吉田和弘学長、杉山誠副学長、神原信志副学長及び小山博之グローバル推進機構長と意見交換の後、学内の航空宇宙生産技術開発センター及び糖鎖生命コア研究所を見学されました。

意見交換においては、本学の概要紹介の後、モロッコの自然・エネルギー・産業・大学教育等の話題に触れながら、モロッコの大学と本学との今後の交流の可能性について話し合われました。

今回の訪問を機に、同国の大学との学生・研究者交流が開始されることが期待されます。



ラシャッド・ブフラル駐日モロッコ王国特命全権大使（右）と吉田学長



集合写真



施設見学（航空宇宙生産技術開発センター）



施設見学（糖鎖生命コア研究所）

日本語・日本文化教育センター 郡上踊りワークショップを開催

【概要】

本学日本語・日本文化教育センター（日文センター）は、2023年5月17日（水）、日文センター和室において、昨年11月にユネスコ無形文化遺産に認定された、国重要無形民俗文化財の「郡上踊り」を学ぶワークショップを開催しました。当日は約20人の留学生が参加しました。このワークショップは、2012年から2019年まで毎年開催し、コロナ禍では中断を余儀なくされていましたが、4年ぶりに開催することができました。

ワークショップが始まる前に、美濃市の国際交流支援グループ「せびあ会」の方々に浴衣を着付けしてもらいました。インドネシア、ガーナ、韓国、タイ、中国、フランス、ベトナム、ベルギーの留学生たちは、色とりどりの浴衣を前に、どれを着ようか嬉しそうに迷っていました。

ワークショップには、郡上踊り保存会囃子部・同 口明方くちみょうがた囃子部の遠藤光生氏、熊澤里重氏を講師としてお招きしました。最初に郡上市や郡上踊りの概要についての説明があり、その後、郡上踊りの中で代表的な曲「かわさき」と「春駒」の2曲の踊りを習いました。

ほとんどの留学生は初めて郡上踊りを体験しましたが、1時間半のワークショップを通して講師も感心するほど上達しました。同じ側の手足を動かす独特の動作に苦戦する留学生もいましたが、「上手下手ではない、笑顔で楽しく踊ることが一番大切」という講師の言葉に励まされて、それぞれがのびのび踊ることができました。最後には、楽しくそして真剣に踊った留学生10名が講師によって選ばれ、岐阜ゆかりの賞品が手渡されました。留学生にとって、日本や岐阜の文化を感じる貴重な機会となりました。



「かわさき」ポーズで集合写真



「春駒」を踊る留学生たち

在岐阜リトアニア共和国名誉領事及び駐日リトアニア共和国大使にリトアニア共和国との交流状況を報告

【概要】

2023年5月31日（水）及び6月2日（金）に、リトアニア共和国との交流状況を報告するため、神原信志岐阜大学副学長（国際担当）及び毛利哲也教授（工学部）が、村瀬幸雄 在岐阜リトアニア共和国名誉領事及びAurelijus Zykas特命全権大使とそれぞれ面談しました。

本学は同国のヴィータウタス・マグヌス大学（以下、VMU）及びカウナス工科大学（以下、KTU）と大学間学術交流協定を締結し、学生及び教員の交流を行うとともに、同国について理解を深め、両国の交流の架け橋となる人材を育成することを目的に、「リトアニア学」を全学共通科目として開講するほか、このコロナ禍においても、現地の学生とオンラインで交流するイベントを実施する等、国際交流活動に取り組んでいます。

このたびの面談では、同国との交流状況を報告するほか、本年3月に本学の教員7名がVMU及びKTUを訪問し、VMUとジョイント・ディグリープログラムの設置に向けた意見交換を行ったこと、KTUと今後の交流推進に向けた意見交換を行ったことを報告しました。村瀬名誉領事からは経済界との連携についても触れられ、また、Aurelijus Zykas特命全権大使とは今後のリトアニアとの更なる交流について意見交換をしました。

本学は、岐阜県出身の元外交官杉原千畝氏の功績を縁に岐阜県が親交を結ぶ同国と、一層友好な関係を構築し交流活動を推進していきます。



村瀬名誉領事との面談の様子



左からAurelijus Zykas駐日リトアニア共和国特命全権大使、神原信志岐阜大学副学長、毛利哲也教授

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/6/1	岐阜	リトアニアの大学と農学分野連携 岐阜大，共同学位準備 ～ 神原信志 副学長，工学部 毛利哲也 教授 ～
2023/6/2	中部経済	リトアニアとの交流 村瀬名誉領事に報告 岐阜大学 ～ 神原信志 副学長，工学部 毛利哲也 教授 ～

～国際化に関連する取組～

在岐阜リトアニア共和国名誉領事及び駐日リトアニア共和国大使に
リトアニア共和国との交流状況を報告

【テレビ等放送】

放送日等	番組名	内容
2023/6/1	チャンネルCCN エリア トピックス715	【岐阜市】岐阜大学教授がリトアニア共和国名誉 領事と面談 神原信志 副学長, 工学部 毛利哲也 教授

在マレーシア国民大学副学長等が本学を訪問

【概要】

2023年6月14日(水)、マレーシア国民大学（UKM）からモハマド カシム副学長（学術・国際担当）、イサク アーマド理工学部長、カイルル アンノアール マスト教養学部長及びヌル ハイカル ローウィンス アブドゥラ国際センター上席役員が本学を訪問しました。本学は、UKMと2016年9月に大学間学術交流協定を締結し、学生・研究者交流を行っております。

モハマド カシム副学長等は、神原信志副学長(国際・情報・評価(副)担当)、小山博之グローバル推進機構長、沓水祥一工学部教授及びリムリーワ工学部教授と、本学とUKMとの交流について意見交換を行いました。その後、地域科学部においても学部長、副学部長および関係教員と意見交換を行いました。意見交換においては、UKMと実施する博士課程のジョイント・ディグリープログラムをはじめとする各種事業について、これまでの交流状況、また今後のさらなる展望などについて活発に議論が行われました。

今回の訪問を機に、新たなプログラムの開始も含めた同大学との更なる交流が期待されます。



集合写真

マリアノ・マルコス州立大学学長等が本学を訪問

【概要】

2023年7月20日(木)に、本学と大学間学術交流協定を締結しているマリアノ・マルコス州立大学(MMSU)から、シャーリー アグルーピス学長、ミージェイ ドミンゴ 国際担当部長、マルロ アキーノ企画部長、アリス レイノルド カヒガル教育学部長、ロメリン ラグラ氏(初等教育学科教員)、フィリスティア メルキュルーリア バガーヤス附属学校長、リアン ジェイマル ラミル氏(薬学部教員・プロジェクトリーダー)及びチェスカ アルラ アグルーピス学長補佐が本学を訪問しました。

本学は、MMSUと2018年9月に大学間学術交流協定を締結し、学生・研究者交流を行っております。

シャーリー アグルーピス学長等は、本学の吉田和弘学長、神原信志副学長(国際・情報・評価(副)担当)、小山博之グローバル推進機構長及び平松連合農学研究科長と、MMSUと本学との交流状況や今後の展望などについて意見交換を行いました。その後、大学間学術交流協定を更新するための署名式を行いました。

また、大学院連合農学研究科と大学院連合創薬研究科において、研究室・施設見学や、研究科長及び関係教員との意見交換会が行われました。

今回の訪問を機に、複数研究分野において MMSUとの交流促進が期待されます。



集合写真

リール大学副学長等が本学を訪問

【概要】

2023年9月8日(金)に、本学と大学間学術交流協定を締結しているフランスのリール大学 (ULille) から、ニルトゥールズ副学長、ディディエゴセ学長補佐 (国際担当)、ヤンゲラルデル氏 (東海国立大学機構糖鎖生命コア研究所 (iGCORE) 特任教授、構造機能糖鎖生物学研究部門ディレクター)、内村健治氏 (フランス国立科学研究センターリサーチディレクター)、ソフィーグールドゥグルト氏、ジョンイヴデュロ氏 (ポリテックリール)、また、在日フランス大使館より、ベネディクトギルマンプロジェクトマネージャー、ジャンバティストボード専門職員 (科学技術部) が本学を訪問しました。

本学は、ULilleと2020年4月に大学間学術交流協定を締結し、学生・研究者交流を行っております。

ニルトゥールズ副学長等は、本学の吉田和弘学長、神原信志副学長 (国際・情報・評価 (副) 担当)、小山博之グローバル推進機構長、平松連合農学研究科長、芝原工学部准教授と、ULilleと本学との交流における今後の展望について話し合いました。とくに、将来的なジョイント・ディグリープログラムの実施を目指した博士学生を共同で指導するシステム等について、活発な意見交換が行われました。その後、iGCOREにおいて、ランチミーティング及び研究室・施設見学が行われました。

今回の訪問を機に、本学はULilleとの連携をより一層深め、今後の研究交流を促進するなどさらなる国際化に向けた取り組みを推進していきます。



集合写真



ランチミーティング

社会システム経営学環及びグローバル推進機構の教員が フエ大学を訪問

【概要】

2023年9月19日（火）と22日（金）に社会システム経営学環の森部 絢嗣 准教授、奥岡 桂次郎 准教授とグローバル推進機構の松井 真弓 助教が本学の大学間学術交流協定校であるフエ大学を訪問しました。

岐阜県とベトナムトゥアティエン＝フエ県は、2016年11月に友好提携を締結して以降、様々な分野で交流を行っています。これに伴い、フエ大学と岐阜大学は、2018年に学術交流協定を締結しました。

9月19日（火）には、同大学観光学部のTran Huu Tuan学部長、Tran Thi Ngoc Lien副学部長、Nguyen Duc Cuong副学部長、Phan Van Ngoc氏、Le Minh Tuan氏を訪問しました。面談では、本学の全学共通教育科目グローバルリーダー実践II及び社会システム経営学環の観光デザイン実習への協力に感謝を述べるとともに、2023年の後期授業から開始する本学学生と同大学観光学部学生がオンライン交流を行ったうえで、2024年3月にフエ市で10日間の観光実習を行うプログラムについて意見交換しました。

初年度となる今回のプログラムを機に、様々な分野での学生・研究者交流の広がりが期待されます。



Tran Huu Tuanフエ大学観光学部長と森部准教授



Tran Huu Tuanフエ大学観光学部長と松井助教



集合写真

岐阜大学ペタンク体験 & 大学対抗ペタンク大会を開催

【概要】

令和5年10月14日（土）に岐阜大学ペタンク体験 & 大学対抗ペタンク大会を岐阜大学構内グラウンド（テニスコート西側）で開催しました。

岐阜大学では10月の1ヶ月間を「国際月間」と位置づけており、その取り組みの一つとして開催したものです。ペタンクはレクリエーションとしても競技としても楽しめる南フランス発祥のスポーツです。

午前中には岐阜大学生の未経験者に向けてペタンク体験が行われ、地域科学部のフランス人教員 ジル・ゲラン准教授の指導のもと、岐阜大学ペタンクサークルの学生やフランス・リール大学からの留学生らとともにペタンクを楽しみました。

午後からは岐阜大学ペタンクサークルが岐阜県ペタンク協会後援のもと大学対抗ペタンク大会を本学で初めて開催し、以下の岐阜県、愛知県、京都府の大学から参加した20チーム、計56名が白熱した試合を繰り広げました。

岐阜大学はこれからも多様な文化に触れる機会を提供していきます。



岐阜大学ペタンク体験の様子



ゲラン先生とフランス・リール大学留学生の皆さん



岐阜大学ペタンクサークルによる大学対抗ペタンク大会開会のあいさつの様子

国際月間特別シンポジウム「グローバル化は我々をどこに導くのか—ChatGPT時代を生き残れ！ 国際化に必要な能力は本当に英語なのか？—」を開催

【概要】

2023年10月31日（火）に、脳科学者の茂木健一郎氏、経営者の塩野誠氏、吉田和弘学長による国際月間特別シンポジウム「グローバル化は我々をどこに導くのか—ChatGPT時代を生き残れ！ 国際化に必要な能力は本当に英語なのか？—」を開催しました。会場となった本学講堂では学内外から約280名が、Glocal Lesson*1でのリアルタイム配信では約100名が、約1時間半の鼎談を聴講しました。

本鼎談は、司会のグローバル推進機構松井真弓助教が学生から受けた相談「留学は就職に有利になるの？」から始まり、英語翻訳に生成AIが利用できる時代に、なぜ英語を学ぶのか、留学するのかについて話し合いました。

塩野氏が、英語が公用語ではないフィンランドでの自身の事業実績を例に、「英語でビジネスが完結できることはグローバル社会において前提である」と世界の共通語として英語が使用されている事を解説すると、茂木氏は「世界的な企業のトップは、訛りのある英語を話す」と言い、「きれいな英語」を話すことが重要ではないことを強調しました。

また、本学がインド工科大学グワハティ校やマレーシア国民大学と実施するジョイント・ディグリープログラムを吉田学長が紹介した際には、茂木氏は「多様性の国に行き、世界のトップを生む大学で学ぶことは素晴らしい経験になる」と語り、塩野氏は「エントリーシートにそうしたプログラムを修了した記載があると雇用する側としては会ってみたいと感じるし、実際に会うと他の学生との違いを感じる」と話しました。また驚異的なスピードで発展を続ける生成AIに関しても言及があり、「AIを考えることは人間を考えることである」と塩野氏が述べると、茂木氏が「もっと知識に貪欲になれ！」と立ち上がって聴衆を鼓舞する場面もあり、終始、熱い議論が交わされました。

鼎談の最後には、3者が「これからの国際社会で働くときに役立つスキル」について各自の考えを述べ、学生らにエールを送りました。Glocal Lessonでは、この鼎談の様様をオンデマンド配信しています。



鼎談の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/11/1	中日	AI時代に必要な能力議論 岐阜大 学長と脳科学者・茂木さんら ～ 吉田和弘 学長 ～

ノーザンケンタッキー大学国際教育センター 事務局長が本学を表敬訪問

【概要】

2023年10月30日(月)に、ノーザンケンタッキー大学（NKU）国際教育センター フランソワ ルファ事務局長が本学を訪問しました。

本学とNKUは、1990年10月に大学間学術交流協定を締結し、学生及び教職員の交流を行っております。

ルファ事務局長は、吉田和弘学長を表敬訪問し、神原信志副学長(国際・情報・評価(副担当)、グローバル推進機構 小山博之機構長、嶋陸宏副機構長、NKUリエゾン（連絡調整者）の教育学部 巽徹教授及び学務部 野々村部長と懇談しました。懇談では、これまでの学生交流の成果や、今後予定される交流プログラム、岐阜・東海地域とNKUの位置するグレーター・シンシナティエリアとの共通点を踏まえた様々な連携の可能性等について話し合いました。

また、ルファ事務局長は、学長他とのランチミーティング、国際担当教員との打ち合わせ、教育学部での学生・留学生との交流及び航空宇宙生産技術開発センターの視察を行いました。

今回の訪問を機に、同大学との更なる交流促進が期待されます。



懇談での記念撮影。左から野々村部長、小山機構長、神原副学長、フランソワ事務局長、吉田学長、嶋副機構長、巽教授



教育学部での学生との交流

岐阜大学大学院連合農学研究科が 「IC-GU12 Roundtable 2023」等を開催

【概要】

岐阜大学大学院連合農学研究科（博士課程）は、11月8日（水）に、南部アジア農学系博士課程教育連携コンソーシアム加盟校（日本を含む南部アジア地域9カ国20大学）（以下、IC-GU12という）による「IC-GU12 Roundtable Meeting 2023」（農学系博士教育国際連携円卓会議：ラウンドテーブル）を含む3つのイベントを開催しました。

ラウンドテーブルでは、リエゾン教員等29名（対面16名、オンライン13名）が出席し、キングモンクット工科大学ラカバン校の新規加盟や、加盟校とのダブルディグリープログラムの今後の方向性に関する議論などが行われました。

次に、「IC-GU12 Joint Lecture Series 2023」では、ポストハーベスト工学をテーマに、Chairat Techavuthiporn准教授（タイ・キングモンクット工科大学ラカバン校）、Pongphen Jitareerat准教授（タイ・キングモンクット工科大学トンブリ校）、Khandra Fahmy准教授（インドネシア・アンダラス大学）、馬剛助教（静岡大学）が講義を行い、IC-GU12の学生を中心に対面で42名・オンラインで27名が聴講しました。

最後に、本学流域水環境リーダー育成プログラムとの共催で行った「UGSAS-GU & BWEL Joint Poster Session on Agricultural and Basin Water Environmental Sciences 2023」では、学生19名によるポスターセッションを開催し、最優秀発表2名、優秀発表3名の表彰を行いました。

ラウンドテーブルでは、コンソーシアムの今後の展望に関する貴重な意見が得られ、Joint Lectureでは熱心に質問する学生の姿が見られました。また、ポスターセッション受賞者から「コロナ禍では難しかった対面での意見交換を行うことができてよかった」「苦楽をともにしている仲間みんなのおかげで賞を取ることができた」と喜びのコメントが寄せられるなど、全体を通して有意義な一日となりました。

今後も、コンソーシアム加盟校との協力を深め、新たなプロジェクトや共同研究の展開を見据えた国際的な研究交流を促進していきます。



ラウンドテーブルの様子



Joint LectureでのPongphen Jitareerat准教授（キングモンクット工科大学トンブリ校）による講演の様子

ヴィータウタス・マグヌス大学農業アカデミー 学部長らが本学を訪問

【概要】

令和6年3月5日（火）に、リトアニアのヴィータウタス・マグヌス大学（VMU）農業アカデミーより、アストリッド・ミセイキエン学部長及びバージニア・カージャイトバイオエコノミー研究所国際担当副所長が本学を訪問しました。

本学は、VMUと2012年1月に大学間学術交流協定を締結し、学生及び教職員の交流を行っております。2022年度には、神原 信志副学長（国際・情報・評価(副)担当)ほか教員7名が同大学を訪問し、主に博士課程での協働教育プログラム開設の可能性について意見交換を行いました。今回、ミセイキエン学部長らは、神原副学長、平松研連合農学研究科長、毛利哲也工学部教授、八代田真人応用生物科学部教授と懇談し、VMU農業アカデミーの研究領域や産業界との連携等について紹介の後、本学の連合農学研究科と協働教育プログラムを開始する場合の展望や課題点等について協議しました。

その後、矢部富雄応用生物科学部教授も加わり、新たに開設されたTokai Open Innovation Complex岐阜サイトでのランチミーティング及び応用生物科学部での研究室見学が行われました。

今回の訪問を機に、同大学との新たな教育プログラム設置や、更なる学生・教職員の交流が期待されます。



懇談での記念撮影。左から毛利教授、平松研究科長、神原副学長、ミセイキエン学部長、カージャイト副所長、八代田教授



研究室見学の様子